

天候不順の影響により野菜の輸入急増

昨年9月から10月にかけて、台風と停滞した秋雨前線による長雨、日照不足などにより全国的に野菜が大きな被害を受けた。特に、葉菜類は、病害の多発とともに根腐れによる定植後の活着不良や生育不良となったことから、国産ものが品薄状態になり、価格が高騰した。このため、10月から12月にかけて葉菜類を中心に野菜の輸入量が急増した。葉菜類のうちキャベツの輸入量は28千トン（主な海空港における概数）で、特に、農林水産省の緊急輸入によるものを含め、中国産キャベツは、24千トンの輸入量で前年同期の40倍にも達した。このうち7割がコナガ、ヤガ類、アブラムシ類、アザミウマ類などの付着で不合格となった。



キャベツ以外の葉菜類では、ハクサイ、レタス及びネギが中国、韓国及びアメリカ合衆国などから16千トン輸入され、これは、前年同期の10倍で、このうち6割が不合格となった。発見された害虫

は、アメリカ合衆国産レタスからジュウイチホシウリハムシ（本誌26号参照）やレタスハモグリバエ（本誌56号参照）の重要害虫が発見され、その他にこれらの品目から多種類の検疫有害動物が発見された。

このように、国内産農作物の不作、価格の高騰、これに伴う輸入急増の状況下では、植物防疫所は多忙となるだけでなく、より一層的確かつ迅速な植物検疫対応を求められることになる。

海外のニュース ネパールのカンキツグリーンング病

カンキツグリーンング病にはミカンキジラミ (*Diaphorina citri*) により媒介され、30℃以上の高温で激しい病徴を発現するアジア系統とトガリキジラミ科の一種 (*Trioza erytreae*) により媒介され、25℃前後の比較的低い温度で病徴を発現するアフリカ系統がある。病原体は細菌であるが、培養が困難（これまでに人工培養例はない。）なことから微生物学的、遺伝的情報は得られていない。最近、両系統の分離株の16S rDNAの塩基配列の違いが明らかにされ、アジア系統には *Candidatus Liberobacter asiaticum*、アフリカ系統には *Candidatus Liberobacter africanum* の学名が提案されている。

大津ら (1998) はネパールでの分離2株の16S rDNAと16S/23S rDNAスペーサー領域の塩基配列を解析して同株はタイでの分離株(アジア系統)と全く同じであることを確認し、ネパールに発生している本病の病原は *Candidatus Liberobacter asiaticum* と推定した。また、ネパールのカンキツの主要品種”スンタラ”での病徴を(I)退緑斑

紋、(II)葉脈が網目状に残る退緑黄化、(III)主脈が緑色に残る退緑化、(IV)若葉の軽い退緑斑紋、(V)葉脈が黄化、(VI)葉脈のコルク化および(VII)黄化斑紋の7つに類別した。このうち、(III)、(V)、(VI)の病徴を示した病斑からは本病菌のDNAの検出量が多く、PCR診断に適していた。さらに、アフリカのスイートオレンジにおける病徴記載と一致することから、これらの病徴はマンダリンとスイートオレンジに共通した病徴と推察される。この知見は、グリーンング病の発生調査など行う場合の病徴診断や病試料の採取に役に立つものと考えられる。

引用文献 Ohtsu, Y. et al. (1998). Typical Symptoms of Citrus Greening on Mandarin Trees in Nepal, Supported by Detection and Characterization of Ribosomal DNA of the Causal Organisms. *Ann. Phytopathol. Soc. Jpn.* 64: 539-545.

発行所 横浜植物防疫所
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045) 211-7155
発行人 小林 敏 郎
編集責任者 今村 毅
印刷所 内村印刷株式会社